

幼児教育センターだより

大田区教育委員会 幼児教育センター 幼児教育担当 (5744)1618

平成26年 4月 発行

記録的な大雪が降り積もり、いつまでも寒い日が続いた冬もようやく終わりを告げ、4月に入って春の暖かさが感じられるようになりました。

近年は桜の開花も早まっていますが、今春の桜は、入園式や進級時に合わせて美しく咲き誇ろうとタイミングを凶らせてくれていたみたいです。

‘可能性’という名のつぼみを抱き、新しいスタートを迎えた子どもたちは、時間をかけて‘一人一人のよさ’という花を彩り豊かに咲かせてくれることでしょう。



新生活を一步踏み出した子どもたちは、これから広がっていく世界への期待と意欲でキラキラと目を輝かせています。子どもが成長していく上で‘〇〇したらどうなるのかな?’という興味・関心を抱いたり、‘〇〇してみたい!’といった意欲を高めたりすることは自己形成にとって非常に重要となります。しかし、まだ幼い子どもにとって自己の思いや考えをうまく表現することは難しく、善い・悪いの判断ができない、友だちとうまく遊べないなどの行動をとってしまうこともあるのではないのでしょうか。さらに、近年の核家族化や少子化の流れの中で、「兄弟姉妹が少ない」、「同年代の幼児と遊ぶ経験がほとんどない」、といった環境のもと、遊具を交代で使ったり、順番を待ったりする経験が少なくなっている、という現状も子どもの育ちに大きな影響を及ぼしているといえます。

今号では、子ども一人一人のよいところや特性を伸ばしていけるような大人の支援についてふれながら、仲間関係・集団生活にとって必要な規範意識を育むことの重要性について考えます。

～「規範意識」は乳幼児期から培われていきます～

☆乳児期より育まれる規範意識☆

乳児は、安心できる大人との信頼関係のもと、一人一人の発達段階に沿って探索活動を広げていきます。このため興味を示したものに対して自分からかかわろうとし、危険を伴う行動をとることも多くなります。また、自我の育ちとともに「自分でやる!」と言い張ったり、大人が手伝おうとすると、「いや」と拒否したりするなど、何でも自分で意欲的にやってみようとしてトラブルを招いてしまうこともあります。

そこで、乳児の行動を予測して、危険に結び付くような物を取り除いたり、事故防止のための安全な環境をつくったりするなど、大人が十分注意を払っておくことは欠かせません。それとともに、「危ないからやめようね」「大丈夫だよ」など、「やってはいけないこと」と、「やってもよいこと」が明確に伝わるように言葉を添えて繰り返し伝えることが重要となります。



このような大人の働きかけが、危険を回避する力を養い、「やってもよいこと」への理解を深めていくのです。危険を伴う可能性があるからといって乳児の行動を制限するばかりでは、規範意識の芽生えを損なうことになってしまいます。安全な環境のもと、好奇心を広げたり、新たな気づきを獲得したりしながら成長している乳児の姿を大人が十分に認め、共感していくことが、規範意識の基礎を培っていくことにつながる、ということを中心に留めておきたいものです。

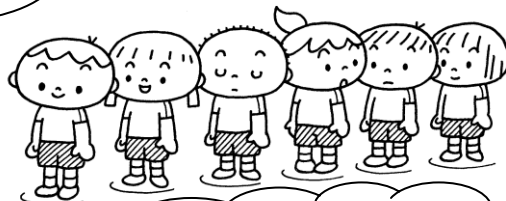
☆幼児期より育まれる規範意識☆

幼児期には友だちと遊びたいという気持ちが高まり、友だちとのかかわりが盛んになります。そして、友だちとの遊びや園での活動を楽しむ中で、物や場所の取り合いなど互いの主張を譲らないことも増え、ケンカへと発展する場面がみられるようになります。こうしたケンカやいざこざを通じて、幼児は、善悪や遊び方のルール、社会のきまりなどを学んでいきます。まさに、幼児期は社会性が著しく発達していく時期であるといえます。



・「自分の好きなように遊びたい!」という気持ちから、友だちを押しつけてでも自分の思いを押し通そうとしてトラブルに…。

・ゲームに負けるとカーッと泣き出したり、友だちに八つ当たりをしたりすることも…。



・分かっているけど順番が守れない時も…。

また、幼児期には、自分中心に物事を考えて行動する姿がみられます。

その為、必ずしも周囲の状況に沿った行動がとれるとは限りません。自分

の考えを主張したり、時にはぶつかり合ったりする経験を積み重ねる中で、遊びを楽しむ為に必要な行動について気付くことができます。そして、友だちと楽しく遊ぶためにはルールや順番を守る必要があることや、時には我慢したり譲ったりすることの大切さを学んでいきます。この過程を経験するからこそ、幼児は自身の思いを大切にしながらもルールや順番を守ろうとする自己抑制力や、相手のことを思いやる力を身に付けていくのだといえます。私たち大人が「自分勝手なんだから…」 「人を困らせるようなことばかり…」 と、幼児の行動を否定的に見ていたのでは一人一人の「規範意識の発達段階」を捉えることはできません。「どうしてそういう行動をとってしまったのか」、「どういう思いだったのか」など、幼児の心の動きに目を向けた上で規範意識を育む支援を大切にしたいものです。

～「自己肯定感」が規範意識の基礎基盤となります～

子どもの規範意識を育む上で何より基盤となるのは、「自分は周囲の大人（保護者・保育者・近隣の人達）に受け入れられている」、「たとえ叱られるようなことがあっても、いつも大人に見守られ、認められている」、といった【自己肯定感】です。この【自己肯定感】が基盤にあるからこそ、子どもは「やりたいこと」と、「すべきこと」との間で生じる葛藤を乗り越え、さらには自分なりにどうしたらよいかを考えて判断し、行動する力を育むことができます。また、子ども一人一人の規範意識の芽生えが着実に育まれていくには、家庭、保育園・幼稚園、地域の連携・協働も欠かせません。私たち大人が協力し合い、生活の中で、継続的に子どもの規範意識を育んでいきたいですね。

